

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告 (http://www.jcu-i.com/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほ証券 本店、全国各支店及び営業所 プラネットブース (みずほ銀行内の店舗) でもお取扱いいたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 *トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。 特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。	

ホームページのご案内

ホームページでは、当社の企業情報をはじめ事業情報や、株主・投資家の皆様向けの情報として、決算発表資料等を適時掲載しております。

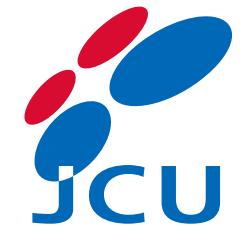


トップページ

IRページ

JCU

<http://www.jcu-i.com/>



株式会社 JCU

証券コード: 4975

株主・投資家の皆様へ

第54期

JCU REPORT

中間報告書 2013.4.1 - 2013.9.30



Contents

1 株主・投資家の皆様へ	3 スペシャル対談	7 特集 - ノーシアン金 -
8 連結財務諸表 (要旨)	9 セグメント別業績概況	10 株式の概況 / 会社概要



株式会社 JCU
〒110-0015 東京都台東区東上野四丁目8番1号
TIXTOWER UENO 16階
TEL: 03-6895-7001 FAX: 03-6895-7021
<http://www.jcu-i.com/>



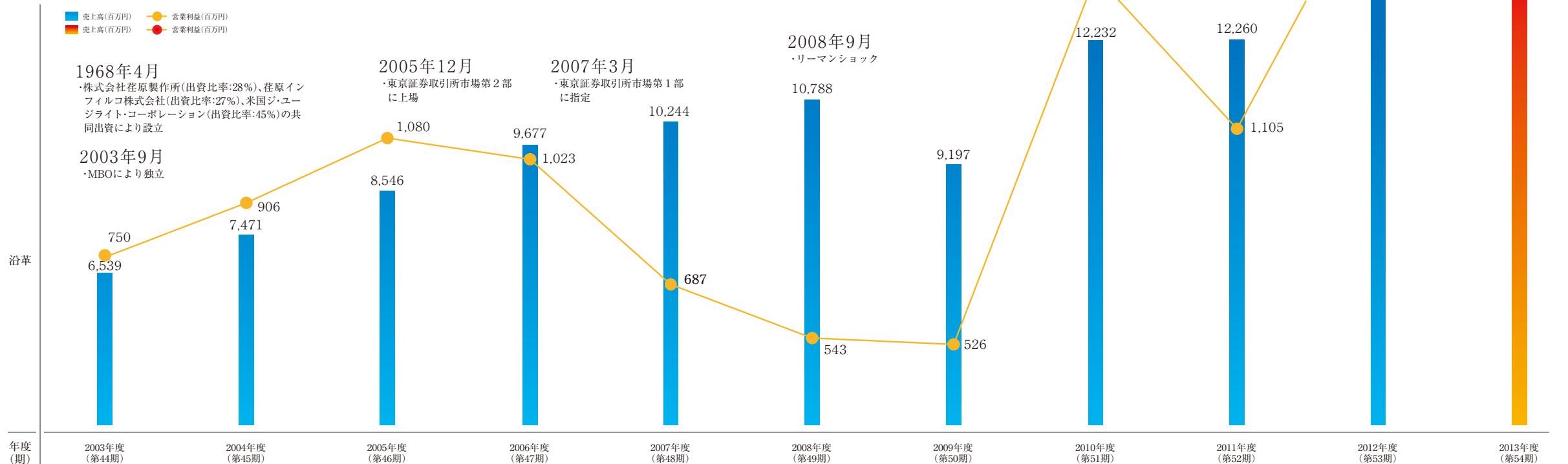
代表取締役会長兼CEO 高橋 健児

MBOから10年目の節目に当たって

今期当社は、MBOから10周年という節目を迎えることになりました。これもひとえに皆様方の長きに亘る変わらぬご支援とご厚情の賜物と心より感謝申し上げます。

当社は、2003年のMBOによる経営の独立により、親会社の制約がなくなり世界市場へ自由に参入することが可能となりました。以来積極的な海外展開を推進することで、グローバルな「総合表面処理メーカー」として今日に至っております。

今後もさらに幅広い分野で皆様方のご要望にお応えすべく私ども役員、従業員一同精進を重ねてまいり所存でございますので、何卒より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



【中間財務ハイライト(百万円)】

- 売上高 **7,753** ↑ 前年同期比 5.1%増
- 営業利益 **1,115** ↑ 前年同期比 15.8%増
- 経常利益 **1,278** ↑ 前年同期比 32.2%増
- 四半期純利益 **773** ↑ 前年同期比 32.8%増

【通期の見込み(百万円)】

- 売上高 **16,000** ↑ 前期比 9.7%増
- 営業利益 **2,300** ↑ 前期比 27.3%増
- 経常利益 **2,400** ↑ 前期比 26.1%増
- 当期純利益 **1,500** ↑ 前期比 38.8%増



対談

業績好調のJCU アナリストの視点からその強さを探る

株式会社JCU
代表取締役会長兼CEO
粕谷 佳允

インタビュアー
井上 哲男

プロフィール

上智大学卒業後、国内保険会社での運用部門から UAM ジャパン・インクのチーフ・ストラテジスト兼株式運用部長に転身。その後、プライド投資顧問、QUICK などを経て、現在は MCP アセット・マネジメント証券でチーフ・ストラテジストを務める。
日本証券アナリスト協会検定会員

高い成長力と収益率を語る

井上：この11月6日に今期の第2四半期の決算発表を行われましたが、とても良い内容です。前期に続き、今期も期中で売上高及び営業利益、経常利益、最終利益の全ての項目で上方修正したことになりますが、この四半期を振り返って頂けますでしょうか。

粕谷：第1四半期の決算発表において、当社の主力セグメントである薬品売上のうち電子薬品部門は1-3月期に生じた海外におけるスマートフォンの一時的な生産調整の影響を受けたものの、このことは織り込み済みで、自動車向けの基幹薬品がそれを十分に補う好調な推移となっていることを申し上げましたが、第2四半期については、引き続き自動車関連が好調を維持したまま、電子薬

品も順調に立ち直り、期初の第2四半期見込みを大きく上回る結果を示すことができました。

当社はもともと、電子薬品と自動車向けの基幹薬品の比率はほぼ5対5であったものが、ここ数年はスマートフォンの増産を受けて6.5対3.5くらいの比率になっていたのですが、自動車生産の好調もあり、両者が増額する形で5.5対4.5の比率となっていることが、今期第2四半期までの一つの成果であると思っています。両者のバランスをとることは業績にバラツキを与えないためにやはり重要だと考えております。

井上：自動車向けの基幹薬品の伸びですが、世界的な自動車生産の好調に加えて、前期に御社の「装置売上」が伸びたことも影響しておりますでしょうか。

粕谷：はい。装置を納入するまでは、メーカー様の仕様にするため、共同で時間をかけて開発いたします。納品

させて頂いた後は、今度は薬品を提供させて頂ける「ストック・ビジネス」の段階に進むことができます。昨年の装置売上が今期の基幹薬品の伸びの一部となっていることは確かです。

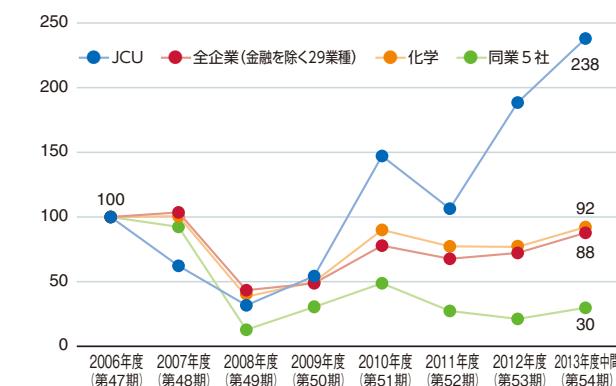
井上：今回の第2四半期の決算発表により、2期連続での売上高、営業利益、経常利益、最終利益の過去最高更新の確度は非常に高まったと思いますが、売上高につきましてはこれで4期連続での更新となります。

ここで一つデータをお示しいたしたいと思います。この10月末時点での今期見込みを集計したのですが、いざなぎ景気最後の決算期である2007年3月期を100とすると、今期の金融を除く上場全企業の売上は94、化学は106、御社の同業と私が考えている5社につきましては77となっておりますが、御社は165と1.6倍以上に拡大していることが分かります。これを経常利益ベースで見ても

すと、全企業88、化学92、同業社30と厳しい状況なのですが御社は238となっております。その結果、売上高経常利益率の今期見込みは、全企業6.3%、化学5.6%、同業7.0%であるのに対して、御社は15.0%と非常に高いものとなっております。特にその差が拡大したのがここ4期であり、これはやはりスマートフォン向けの好調さが表れていると考えられます。国内メーカー数社が個人向けスマートフォンの撤退を表明しましたが、この影響は今後出てきそうですでしょうか。

粕谷：その懸念は全く無いと思って頂いて構いません。スマートフォンはご存知のようにアップル、サムスンの圧倒的2強に加えて中国メーカーがシェアを拡大しておりますが、日本メーカーのシェアは既に世界で5%程度にまで落ち込んでおります。当社は早くから海外メーカーとの強固な関係を築いてきました。スマートフォンは旧来型携帯電話の1.5倍以上の電子部品を搭載しておりますが、だからといって厚さを1.5倍にすることは許されません。高密度化への対応、そしてそのことがもたらすコストの削減のために当社の薬品を必要として頂いており、その世界シェアは7割程度にまで拡大しております。無論、気を緩めることはできませんが、世界のスマートフォン製造が毎年1億台増加していることは当社にとって引き続き追い風であると考えております。

経常利益推移



*上記グラフは、各々の2006年度(2007年3月期)を100とし算出しています。

市場開拓の契機となったMBO

井上: 今年で御社はあの伝説のMBOから10周年を迎えました。会長は以前から事業の両輪は「技術開発力と市場開拓力である」と言われていましたが、ここ4年間の海外での業績を見ますと、あのMBOから上場に至る期間に行われた海外への進出が「市場開拓力」として大きな果実を生んだと思うのですが。

粕谷: MBOに関わる作業、MBO後も上場に向けて主要取引先14社に株式を保有して頂くための努力という国内の課題をひとつひとつクリアするとともに、エンソン社との契約が失効したことをチャンスととらえて海外進出の布石を非常なスピード感を持って進めたことが、ここ4期の業績につながったと思っています。

井上: 全てはあのMBOから始まったのです。当時、私はベンチャー・キャピタルの友人も多かったのですが「第2のユーザライトを探せ」というのが合言葉のようになっていました。



粕谷: (会長室に飾られている写真を示しながら) 先日、上場前に株式をご購入頂いた主要取引先をお招きして粗宴を持たせて頂きました。あのとき我々経営陣の勇気を支えてくださったことに改めて感謝するとともに、経営はやはりタイミングを逸してはいけないということを強く思います。

井上: さて、新規事業のことにお話を移らせて頂きますが、太陽光パネルの設置・販売事業、中国・台湾で納入が始まった貴金属めっき事業、台湾での化粧品販売などが挙げられます。

粕谷: いずれもこれからの展開がおもしろい事業ですが、中国・台湾で納入が始まった貴金属めっき事業につきましては、それまでのニッケルと金によるめっきではなく、ニッケルとパラジウムと金の無電解めっきにより、金の含有量を低下させてメーカーにコスト削減をもたらします。

また、現在「ノーシアン金」の研究開発にも取り組んでおり、開発は順調に進んでおります。金めっきはどうしても有毒なシアンを使用するのですが、開発中の薬品を使用することにより、このシアンを使用せずにめっきを施すことが可能になります。(特集ページP.7参照)

大切なことは、会社が苦しくなってきたときに社運をかけて新規事業を行う、またはその開発を行うのでは完全に遅く、会社の業績が好調なときに、次への布石に向けた開発を行うということです。その新規事業ですぐに利益という答えを求めるのではなく、その研究開発を行って得られたものが次の研究開発につながるのかという視座も必要です。「技術開発力と市場開拓力」の「技術開発力」はこうして育つのです。

井上: 先日、化学のアナリストと話をしていて、化学メーカーは自社が強い部分のシェアを守ることに注力するが、なかなか他社の強い部分に進出していきこうとしない傾向があるという点で一致しましたが、御社はその姿勢についても評価できると思います。会長が考えていらっしゃる次の一手を教えてくださいませんか。

粕谷: 以前、ホームページの中で触れたことがありますが、アメリカへの進出ですね。さきほど国内メーカーと

のスマートフォンにおける関係についてお話ししましたが、自動車メーカーについては逆に、国内主要メーカーとは全てお付き合いがあり、関連薬品のシェアは75%程度と非常に密な関係を築かせて頂いております。そのため、自動車メーカーの海外での進出先でもお付き合いをさせて頂いているわけですが、メキシコもその一つです。アメリカと地続きのメキシコで得られたことも活かして、アメリカに進出している日本メーカー、そしてアメリカのメーカーとのお付き合いを本格的に考えるタイミングであると考えております。

高い株主還元率を維持する

井上: とても楽しみなお話ですね。さて、私のラジオNIKKEIの番組「アサザイ」にご出演頂いたのが昨年9月でした。番組の中で、御社の成長性の高さや収益性の高さに加えて株主還元姿勢を強調したのですが、配当金について申し上げますと、前期の期初見込みは1株あたり60円であったのですが、業績好調により8月に10円増配を発表、その後も社名変更の記念配10円が加算されて年間80円となりました。今期についてはそれを上回る90円配当を期初見込みとされて、MBO10周年記念配として10円を加算されることを発表されましたので年間100円配当と、昨年5月の前期期初見込みから1年半で1.67倍にもなっています。これに株主優待を考慮しますと単元株で年間1万5,000円となります。株価が4,000円で3.75%、5,000円で3%の高い実質株主還元率になるのですが。

粕谷: ステークホルダーという言葉があります。この言葉を単に株主のことを指すことに使っている経営者が多いですが、これは誤りです。ステークホルダーとは当社の業況がその人達の利益に影響を与える全ての人達や団体を示しておりまして、私はその一番大きなステークホルダーは、当社の取引先企業様、株主の皆様、当社の従業員とその家族の3つであると考えており、必要な内部留保、研究開発費以外の部分を均等に分配したいと考え

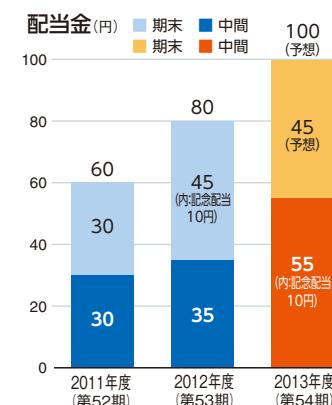
ております。

取引先企業様については、その企業様と共同で薬品を開発する際にかかる費用という形で、そして株主の皆様には配当金と株主優待という形できちんとお応えしたいと考えております。

井上: 最後にバリエーションのお話をしようと思います。外国人も注目している株主資本最終利益率(ROE)ですが、

10%が高収益企業の一つの目安とされています。御社は前期までの3期平均でこの数字が14%を超えており、上場する3,500社以上の企業のうち上位10%内に入るのですが、それでも10月末時点でのPERは10.9倍と東証一部銘柄の平均である16.4倍を大きく下回っており、株価は過小評価であるという印象を持ちますが。

粕谷: 私も個人的に極めて過小評価であると考えております。経営は安定と継続が最も大切ですが、現在はさらに「安定した高成長」と「高収益率の継続」を当社は行っていると考えております。これからも、きちんと業績を開示し、市場の評価が高まりますよう一層の努力を重ねる所存です。



新規ノーシアン金めっきプロセスの開発

関東学院大学 材料・表面工学研究所との共同開発

今回は当社が注力しておりますノーシアン金めっきの開発への取り組みについてご紹介します。

金めっきは安定性が高く、優れた耐食性、耐摩耗性、導電性などを有しており、身の回りにある様々な電子機器を支えているプリント基板やウエハー、電子部品などの最終表面処理に幅広く使用されています。

しかし、一般的に金めっきは有毒なシアンを含有しているため、シアンの毒性による排水処理や取り扱い、環境汚染、作業者の負担などが問題になっています。その解決方法としてシアンを使用しない亜硫酸金めっき浴が多く報告されていますが、安定性が悪いため限定的な分野のみ使用されているのが現状です。

また、中国では政府指導でシアンを使用規制する動きも見られます。そこで、当社ではこれらの問題に着目し、「安定性に優れた全く新しいノーシアン金めっき RSG (Rare Synthesis Gold) プロセス」の開発を進めています。今回は、その概要についてご紹介します。

環境にやさしく安定性に優れた液組成

RSGプロセスで使用する金めっき液に含まれる成分の特長は次の通りです。

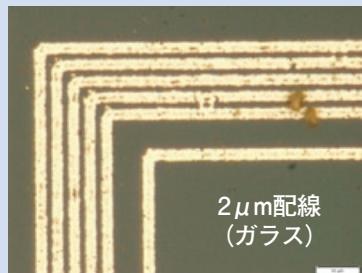
- ・医薬品原薬、ビタミン剤、食品添加物などで構成
⇒排水処理及び管理が容易
- ・亜硫酸金より優れた錯体安定性



*さらにシアン化金の安定性に近づけるよう検討中です。

めっき応用例

当社ではノーシアン金めっきの開発と並行して、シリコン代替技術としてガラス上へのめっきにも取り組んでいます。新しいこの2つの開発プロセスを組み合わせた微細配線めっきの応用例を図に示します。



ガラス上への金めっき

今後の展開

環境にやさしく安定性に優れた金めっきプロセスの開発は最終段階まで進み、実用化に向け取り組んでいるところです。実用化すれば、現在ある金めっき分野のみならず、人体への影響が少ない薬品を使用していることで体内に使用する医療用デバイスへの応用も期待されます。

また、市場としては中国市場を主体に海外市場など新たな市場への展開が可能と考えています。

「環境保全」は、表面処理にとって、今後目指すべき一つの大きなキーワードです。「安定性に優れた新しいノーシアン金めっき」は、新たな市場を開拓できる大変有望なプロセスであると期待しています。

連結財務諸表 (要旨)

連結貸借対照表

(単位: 千円)

区分	当中間期末 2013年9月30日現在	前期末 2013年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	9,743,627	10,630,046
固定資産	4,875,021	4,766,641
資産合計	14,618,649	15,396,688
【負債の部】		
流動負債	3,655,748	5,607,856
固定負債	2,169,011	2,088,847
負債合計	5,824,760	7,696,703
【純資産の部】		
株主資本	8,293,974	7,679,282
資本金	1,176,255	1,176,255
資本剰余金	1,128,904	1,128,904
利益剰余金	5,989,181	5,374,342
自己株式	△ 366	△ 219
その他の包括利益累計額	468,639	1,518
少数株主持分	31,275	19,183
純資産合計	8,793,889	7,699,984
負債純資産合計	14,618,649	15,396,688

連結損益計算書

(単位: 千円)

区分	当中間期 (自 2013年4月 1日 至 2013年9月30日)	前中間期 (自 2012年4月 1日 至 2012年9月30日)	前期 (自 2012年4月 1日 至 2013年3月31日)
売上高	7,753,688	7,377,652	14,581,371
売上総利益	3,876,307	3,537,634	7,009,826
販売費及び一般管理費	2,761,188	2,574,929	5,202,683
営業利益	1,115,118	962,705	1,807,143
経常利益	1,278,281	966,593	1,902,584
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,275,692	965,958	1,802,849
少数株主損益調整前四半期(当期)純利益	775,197	584,481	1,072,619
四半期(当期)純利益	773,565	582,664	1,080,867

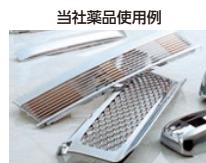
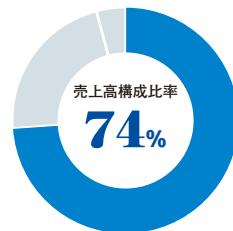
連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

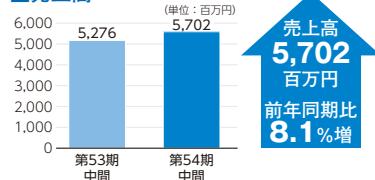
区分	当中間期 (自 2013年4月 1日 至 2013年9月30日)	前中間期 (自 2012年4月 1日 至 2012年9月30日)	前期 (自 2012年4月 1日 至 2013年3月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	117,929	611,002	1,814,311
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 132,757	△ 163,263	△ 597,289
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 220,439	△ 570,309	△ 988,187
現金及び現金同等物 に係る換算差額	135,094	18,685	137,673
現金及び現金同等物 の増減額	△ 100,173	△ 103,885	366,507
現金及び現金同等物 の期首残高	3,378,238	3,011,731	3,011,731
現金及び現金同等物 の四半期末(期末)残高	3,278,065	2,907,846	3,378,238

セグメント別業績概況

薬品事業



売上高



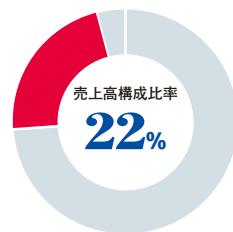
セグメント利益



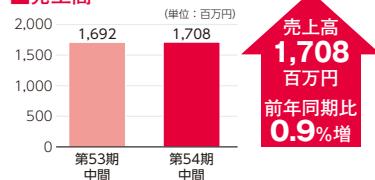
事業概要

薬品事業では、国内外市場において表面処理薬品の製造販売、関連資材の仕入販売を行っております。当社グループにとりまして、最も重要なマーケットと考えているのは、一つは自動車業界や住宅産業であり、もう一つはプリント配線板や電子部品などのエレクトロニクス業界であります。両分野共に研究開発・アフターサービス体制を整備しており、各業界の大手メーカーを中心に技術動向を把握し、顧客の商品開発やニーズの情報を収集することで、営業戦略構築の礎としております。

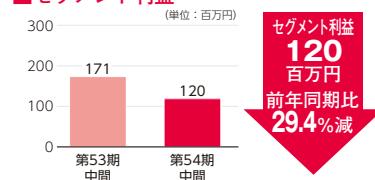
装置事業



売上高



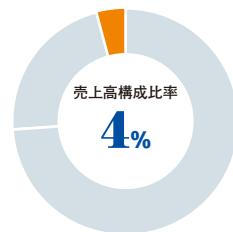
セグメント利益



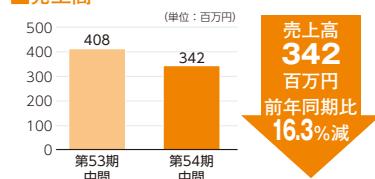
事業概要

装置事業では、全自動表面処理装置及び表面処理装置の付帯機器の製造販売を行っております。長年に亘るめっき装置事業のノウハウを活かし、薬品技術とのシナジー効果による総合力を基礎として、顧客の立場に立った販売活動を実施しております。

新規事業



売上高



セグメント利益



事業概要

新規事業では、プラズマ技術を利用したプリント配線板のエッチング及び洗浄用装置の販売、スパッタリング装置による着色（カラーリング）処理、貴金属めっきの薬品製造販売、コーティング薬剤の販売、環境関連装置の製造販売を行っております。また、台湾で化粧品の販売も行っております。

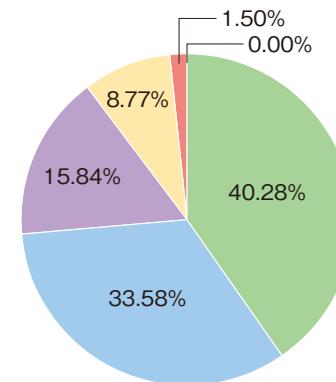
株式の概況 / 会社概要 (2013年9月30日現在)

株式の状況

発行済株式総数 3,527,400株
株主数 4,814名

所有者別株式分布状況

- その他国内法人 1,421,100株 40.28%
- 個人・その他 1,184,688株 33.58%
- 金融機関 558,900株 15.84%
- 外国人等 309,631株 8.77%
- 証券会社 52,913株 1.50%
- 自己名義株式 168株 0.00%



大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	152,600	4.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	134,800	3.82
日本バーカライジング株式会社	113,500	3.21
日本高純度化学株式会社	110,000	3.11
粕谷佳允	103,800	2.94
荏原実業株式会社	100,000	2.83
株式会社S・D・PA	100,000	2.83
日本化学産業株式会社	93,000	2.63
神谷理研株式会社	80,000	2.26
栄電子工業株式会社	80,000	2.26
株式会社ユニゾーン	80,000	2.26

(注)持株比率は自己株式(168株)を控除して計算しております。

- 商号 株式会社JCU(2012年10月1日より)
- 本社所在地 東京都台東区東上野四丁目8番1号 TIXTOWER UENO 16階
- 設立 1968年(昭和43年)4月1日
- 資本金 1,176,255,128円
- 事業所 【国内】
総合研究所 生産本部 大阪支店 名古屋支店 九州営業所

【主要な連結子会社】

- ・ JCU(上海)貿易有限公司
- ・ JCU(深圳)貿易有限公司
- ・ 台湾JCU股份有限公司
- ・ JCU KOREA CORPORATION
- ・ JCU (THAILAND) CO., LTD.
- ・ JCU AMERICA, S.A. DE C.V.
- ・ JCU VIETNAM CORPORATION
- ・ 銀座鈴蘭堂化粧品股份有限公司(台湾)
- ・ PT. JCU Indonesia
- ・ JCU科技(深圳)有限公司
- ・ JCU(北京)貿易有限公司

【関連会社】

- ・ PROGRESSIVE JCU CHEMICALS PVT. LTD.
- ・ JCU Nanomate 株式会社

役員一覧

- | | |
|-------------|--------|
| 代表取締役会長兼CEO | 粕谷 佳允 |
| 代表取締役社長兼COO | 小澤 惠二 |
| 専務取締役専務執行役員 | 上谷 正明 |
| 専務取締役専務執行役員 | 君塚 亮一 |
| 専務取締役専務執行役員 | 山本 雅司 |
| 常務取締役常務執行役員 | 中村 憲二 |
| 常務取締役常務執行役員 | 木村 隆男 |
| 取締役常務執行役員 | 小林 幹司 |
| 取締役常務執行役員 | 林 伸治 |
| 常勤監査役 | 大野 寛二 |
| 社外監査役 | 伴 峰夫 |
| 社外監査役 | 高井 正彦 |
| 社外監査役 | 高井 治 |
| 常務執行役員 | 福島 敏明 |
| 執行役員 | 山本 観一朗 |
| 執行役員 | 永井 正雄 |
| 執行役員 | 木村 昌志 |
| 執行役員 | 陸 伯堯 |

従業員数 連結442名(37名) 単体 244名(11名)

(注)臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含みます)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。